

取引を楽しもう

価格変動を推理 売買に反映

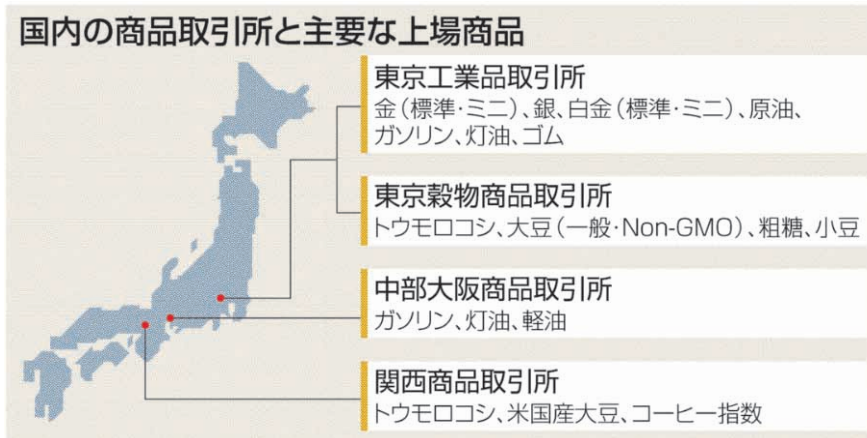
投資のおもしろさや楽しさは価格変動を推理することにあると指摘する投資家は少なくありません。もちろん投資ですからリターンを得ることは重要です。しかし分析に分析を重ねて「買い」か「売り」の答えを出したとしたら、仮にその結果が実を結ばなくても、不思議と納得がいくものです。余裕資金と熟慮の結果を売買に反映するやり方は、投資と長くつき合うひとつのコツかもしれません。

未来の値段を占う

世の中にはさまざまな投資がありますが、商品先物取引には取引銘柄を絞り込んで深く勉強できる魅力があります。

株式市場の上場銘柄は国内だけでも数千に及びます。一方、商品先物市場で活発に取引されている銘柄は指を折って数えられるほど。これは海外でも同様で、だからこそひとつひとつの銘柄に心を砕けるのです。

国内商品先物市場で一番の人気銘柄は東京工業品取引所で取引されている金先物です。金先物には「標準取引」と「ミニ取引」があります。違いは取引の大きさ。標準が1キロ単位であるのに対し、ミニはその10分の1の100グラム単位で



取引します。

価格が将来高くなるか安くなるかを推理するポイントは同じです。推理の仕方は大きく分けて2通り。需要と供給の力関係に影響を与える経済や社会の出来事に着目するやり方と、そうしたことは一切無視して過去の価格を数学的あるいは経験的に分析するやり方があります。前者をファンダメンタルズ分析、後者をテクニカル分析と呼びます。

ファンダメンタルズというのは「基礎的な要因・要素」といった意味合いの英語で、当然、銘柄によってその内容は異なります。例えば金の場合は採掘・製錬の進捗状況に始まり、工業や宝飾需要

の増減、世界の中央銀行の調達や放出、また政情不安やインフレの高進・緩和、今回の世界金融危機に絡んだ各国政府の一手一投足が挙げられます。

また穀物、例えばトウモロコシの場合は、世界最大の産地米国そしてブラジル、アルゼンチンなどでの生育状況が大きなカギを握っています。天候相場という言葉がありますが、毎年、初夏から収穫が済む晩秋まで、世界の穀物トレーダーは土中の水分量を左右する降雨や気温の予報や発表にくぎ付けになるのです。

もちろんこうしたファンダメンタルズは複雑に絡み合って価格に反映されています。ですから、そうした情報を早く、

新・商品先物入門

②

日本商品先物振興協会

小島 栄一

正確に収集し、いかに的確に判断するかが推理の分かれ目といえるでしょう。

国内の産出量がほぼゼロの金、多くを輸入に頼っているトウモロコシは、ドルと円の為替レートの変化で相場が大きく左右される「国際商品」であることにも注意を払わなければなりません。

世界の金融情報の集積地

ところで、そうした情報収集で「地の利」を生かせるのが本紙読者のメリットです。もちろん全紙面を通して投資情報にあふれているのが本紙の特徴ですが、中でも世界の為替、株式、金融市場分析や関連ニュースで定評のあるブルームバーグ社が情報を提供しているグローバル・ファイナンス面に注目してください。最近ではとりわけ世界金融危機関連の情報が詳細に伝えられており、金価格はもちろん、為替動向を予想する上でも見逃すことができない情報が満載されています。